

校報 まきがね

恵那西中学校だより 第6号

令和2年 9月1日(火) 発行



虫の音のように ~広がる会話・つながる心~

校長 熊崎 健一

昼間は、まだまだ残暑厳しい毎日ですが、朝夕は少し過ごしやすくなってきました。夜、耳を澄ますと涼しげな虫たちの声が聞こえてきます。互いの羽音を意識しているのでしょうか、まるで生徒が日頃大切にしている“呼応”のように、次第に虫の音は広がり、響き合っているようにも感じます。読書の秋、勉学の秋、スポーツの秋、食欲の秋、〇〇の秋…、待ち遠しいですね。

少し前の話になりますが、全校朝会で「一往復半以上の会話が飛び交う学校にしよう!」という提案をしました。次の日から早速実践してくれる生徒もおり、その反応のよさに感心しました。今も、生徒「おはようございます!」→先生「おはよう!」→生徒「今日も暑いですね!」こんなやり取りが聞かれます。気持ちのよい挨拶を返すことや自分から進んで挨拶することは、ご家庭においても幼い頃から基本的な生活習慣として大切にされてきたことでしょう。でも、挨拶は多くの場合一往復で完結してしまいます。だから、どちらからともなくもう一言加える。その一言を発するには、必ず心が働きます。相手の気持ちを察したり思いやったりします。これはもう単なる習慣としての挨拶に留まりません。心をつなぐ会話となっているのです。学校・家庭・地域で、挨拶以外の場面でも、もう一言二言やり取りを広げ、心をつなぐ会話ができる。そんな心の温かさ・豊かさのあふれる会話ができる西中生に育てて欲しいものです。

汗・感動・声援・感謝 ~恵那市中体連代替試合など~

7月中旬から約一カ月をかけ、恵那市中体連代替試合などが行われました。部活動やクラブの再開からあまり時間もなく、十分な備えて試合に臨むことは難しかったことでしょう。上位大会に進むチャンスもありません。それでも汗だくになってプレーし、勝って歓声を上げる姿、負けて涙する姿に声援を送りました(心の中で…大声での応援は自粛)。とりわけ3年生にとっては“最後の夏”。このような形での区切りに複雑な気持ちもあったでしょうが、目の前のプレーに全力で向かう姿に感動を覚えました。競技種目によって、応援に人数制限を設けたり、こまめに消毒や換気を行ったりするなどのコロナ対策も講じながら運営してくださいました。中体連大会の中止を受け、各競技団体の皆様が「何とか頑張ってきた生徒たちに活躍の場を!」との一念からこのような機会を提供してくださいました。関係するすべての皆様に、改めて感謝申し上げたいと思います。

<主な結果> ※紙面の都合上、上位入賞のみ紹介します。また、順位をつけない交流会形式の種目もありました。

野球 中部日本地区選抜中学軟式野球恵那市大会 準優勝

岐阜県中学選抜軟式野球恵那市大会 準優勝

ソフトボール 準優勝

バレーボール [男子]優勝

バスケットボール [男子]準優勝 [女子]準優勝

ソフトテニス 団体戦 [男子]優勝 [女子]準優勝

個人戦 [男子]優勝:今井・中村ペア

3位:和木・永谷ペア

[女子]3位:鷲見・小島ペア

